

平成20年度愛知県生活習慣病対策協議会各専門部会報告

	糖尿病対策部会	がん対策部会
開催日	平成21年1月28日(水)	平成21年1月26日(月)
議題	1 平成20年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について 2 市町村糖尿病事後指導等状況について 3 平成21年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業(案)について	1 平成20年度生活習慣病対策費 がん対策予算について 2 平成20年度各がん検診精度管理委員会開催結果について 3 がん登録事業について 4 「愛知県がん対策推進計画」の進捗状況について
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p>【平成20年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について】</p> <p>糖尿病対策事業として展開する3つの区分のうち「知識普及啓発」「環境整備」の2つの区分の中で実施された各事業について報告・検討を行った。</p> <p>「知識普及啓発」・・・学童期メタボリックシンドローム予防事業、大学生メタボリックシンドローム対策事業 両事業とも現状を知ることが大切であり、その結果を踏まえどのように社会・地域へ展開していけるかが課題</p> <p>「環境整備」・・・食育推進協力店登録事業、メタボリックシンドローム対策地域連携協議会 食育推進協力店登録事業では、企業のマーケティング手法を参考に、県の啓発活動も効果的に展開する必要がある。</p> <p>メタボリックシンドローム対策地域連携協議会では、住民への啓発・周知の重要性や関係機関との情報共有の必要性が意見や課題としてあげられていた。</p> <p>なお、市町村の糖尿病対策事業においては、その認識に差があり保健所の支援が重要である。</p> <p>【市町村糖尿病事後指導状況について】</p> <p>老人保健法にもとづく健康診査結果からの糖尿病事後指導状況を提示。 40歳代男性のBMI2.5以上の肥満者割合は約3割に対し、40歳代女性はBMI18.5以下のやせの割合が約1割あり、その年代や特性に合わせた啓発や健康診断のあり方を考える必要がある。</p> <p>【平成21年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業(案)について】</p> <p>予算が厳しい中での事業実施であり、効果的な事業展開を実施する必要がある。 そのためにも職域・地域、関係団体などが連携して取り組むことが大切である。</p>	<p>【平成20年度各がん検診精度管理委員会開催結果について】</p> <p>がん検診の問題点として対応すべき課題は、受診率向上、精度管理、受診対象者、受診間隔などである。 現在は市町村実施のがん検診だけで受診率を評価している、職場検診や人間ドックの受診者も含めると、県民の全受診対象者のうち、何%が受診しているか全体像を把握する必要がある。 勤務者は職場検診を受診する機会があるが、がんの罹患リスクが高まってくる退職後は職場での受診機会がなくなる。退職前検診の強化や退職後の検診実施など工夫していく必要がある。</p> <p>【がん登録事業について】</p> <p>がん登録の精度向上のため、届出状況が悪い病院について病院協会で議論したことがあるが、今後も主要施設ごとの登録状況について部会で報告し、届出改善のための具体的な対応策を検討すべきである。</p> <p>【「愛知県がん対策推進計画」の進捗状況について】</p> <p>大学病院でもがん診療拠点病院に入っていないところもあるが、がん対策推進計画を進めていく上で検討が必要ではないか？ 病理専門医を拠点病院に複数配置する目標があるが、病理医は減少しているため、拠点病院だけに病理医がシフトする恐れはないか？(将来的に画像診断ネットワークを用いた病理診断センター構想もある) 日本看護協会によるがん性疼痛や薬物療法に関する認定看護師の配置目標があり、県立看護大学で認定看護師のgvb教育課程が開設されているが、来年度以降も継続していく必要がある。</p>
今後の方向性 (箇条書き)	<p>大学生メタボリックシンドローム対策事業を通じて、若年期の生活習慣の特性などを把握し、平成21年度は関係機関と啓発活動を実施する。またその結果を今後の保健指導等に活用できるよう検討する。</p> <p>医療保険者が実施する特定健診・特定保健指導の導入により、受診者の特性が把握しやすくなり適切な保健指導が実施されることから、糖尿病等をはじめとする生活習慣病予防に対する情報提供を実施するよう促す。</p> <p>環境整備の一環として実施する食育推進協力店は、県民の健康意識を高めるひとつの手法として大切であり登録施設数の増加を図るとともに登録施設と協働し、県民に向けた啓発活動を実施していく。</p>	<p>今年度から特定健診・特定保健指導が始まっており、保険者と協議する機会も多くなっている。そうした機会をとらえて、職域におけるがん検診の実施状況の把握に努める。</p> <p>主な医療機関におけるがん登録の届出状況について、医療機関ごとの実態を部会へ報告し評価するため、来年度以降、部会へ資料を提出することを検討する。</p> <p>来年度は県内の全ての拠点病院が指定更新申請をする必要があり、合わせて新規指定の募集も行う。国は指定にあたって、各地域の人口分布により均等に配置しており、大学病院とそれ以外の病院を区別しないとしている。県としては拠点病院を中心とした質の高いがん診療が受けられる体制の整備を進めていく。</p> <p>県立看護大学の認定看護師教育課程を来年度も継続して開設し、専門的な知識と技能を習得した看護師の育成に努める。</p>

	循環器疾患対策部会	歯科保健対策部会
開催日	平成21年1月6日（火）	平成21年1月30日（金）
議題	<p>1 循環器疾患登録事業について</p> <p>2 基本健康診査について</p> <p>3 生活習慣病の発生の状況の把握方法について</p>	<p>1 健康日本21あいち計画見直しに向けて あいち計画の目標に向けた進捗管理</p> <p>(ア) 歯科保健状況</p> <p>(イ) 健康日本21あいち計画の年次目標と進捗状況</p> <p>(ウ) 8020 追跡調査事業及び8020あいちプロジェクト事業について</p>
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p>今後、県としては、循環器疾患の発生状況の把握方法として、これまで実施してきた循環器疾患登録事業に代え、特定健康診査の結果を利用した把握方法(特定健康診査の結果の分析の過程で、レセプト情報から得られる病名等から循環器疾患を把握する)を検討していきたいと考えているが、このことについて検討いただいた。</p> <p>(意見)</p> <p>いわゆるレセプト病名のため、実際は発症していないものまで拾ってしまう可能性があるため、特に脳血管疾患などは件数が増えるのではないかと。一方、心筋梗塞などは、かなり確定したうえでレセプトに記載されると思うので、心疾患については比較的ぶれが少ないのではないかと。疾患により、発症を表しているかが異なる。</p> <p>特定健診の健診結果の推移を評価する過程において、病名についてもうまくレセプトと突き合わせができれば、医療機関への負荷が少ないのでやりやすくなるのではないかと。また、個人ごとの特定健診の健診結果とレセプトの検査結果や病名についてのデータを経時的に追っていけるのであれば、データとして利用度は高くなるのではないかと。</p> <p>レセプトの電子化が予定されているが、電子化の際には、独自のコードにより病名を表し、現在使っている病名と変わるものもあると聞いているので、一度確認されたほうがいい。</p> <p>データの分析をする場合には、データの数があまりに多いと処理しきれないかと危惧される。まずは代表的な市町村を定めて、モデル的に行うことを検討されたい。</p> <p>新たな方法を始めるにしても、これまでやってきた登録事業のやり方からいかせること、ここは直さないといけないというようなことは取り入れるべき。少なくとも、今までの登録事業よりも質を落とすようなことがあってはならない。</p> <p>⇒ 今後、循環器疾患登録事業に代え、特定健康診査の結果を利用した循環器疾患の把握方法を検討していくこと、及び詳細な部分の検討については部会長と事務局に一任することが了承された。</p>	<p>健康日本21あいち計画の目標達成(特に重点目標)のための方策について、それぞれの立場で何ができるのか、何をしていく必要があるのか協議・意見交換を行った。</p> <p>【健康日本あいち計画の年次目標と進捗状況】</p> <p>永久歯う蝕の減少をさらに促進する</p> <p>特に、第一大臼歯の健康を守るために、フッ化物洗口を今後も現場の理解を得ながら推進していく。フッ化物洗口を通して、“健康を守っていく姿勢”が子どもたちに芽生えていくとよい。</p> <p>しかしながら、フッ化物洗口がう蝕対策に良い事業であることが理解できていても、児童生徒の状況が多様化しており、なかなか実施困難な場合もある。</p> <p>来年度発行予定のフッ化物洗口実施マニュアル(仮称)の作成にあたって、安心してフッ化物洗口を施設で実施できるよう、現場の意見をなるべく取り入れて取り組みへの理解が得られやすい内容となるよう工夫をしていく。</p> <p>成人生活習慣改善のための「歯の健康づくり得点」の活用を進める</p> <p>「歯の健康づくり得点」は、セルフチェックをしながら本人に気づきを促すことができる一方で、集団で結果を集積するとその集団の特徴が把握でき集団への健康教育ポイントを明確にすることができるツールである。成人に対する「歯の健康づくり得点」の活用を推進してきたが、その結果を観察すると、「歯ぐきから血が出る」と回答する者の割合は若年者から男女共に多い。若い世代への生活習慣育成のために、小学生・中学生・高校生版の歯の健康づくり得点の活用を学校保健活動と連携し進める。さらに、「間食をよくする」「たばこを吸う」と回答している者の状況をみても、今年度から始まったメタボリック対策での活用も有用と考えられるため、特定保健指導の場面等での積極的な活用を働きかけていく。</p> <p>ライフコース疫学にあてはまる歯の健康づくり対策</p> <p>8020を目指すためには、フッ化物の応用や歯の健康づくり得点を活用した様々なライフコースを意識した事業展開が必要であるが、これは、歯の健康に限らず、健康全般にあてはまることである。歯の健康を疾病対策として取り組むのではなく、生活習慣や全身の健康と絡めて歯科保健対策を今後も進めていく必要がある。</p> <p>【8020 追跡調査事業及び8020あいちプロジェクト事業について】</p> <p>8020を目指すためには、フッ化物の応用や歯の健康づくり得点を活用した様々なライフコース疫学に基づいた事業展開が必要であることが明らかになった。歯の健康づくりも、生活習慣病の健康づくりの習慣と共通していることも明らかになってきたことから、歯の健康づくりを進めるのは、糖尿病予防、循環器疾患予防、がん予防など、他の健康づくりの生活習慣づくりと共通している、いわゆる共通生活習慣(common risk approach)対策が大切である。</p>
今後の方向性 (箇条書き)	<p>来年度については、登録事業を継続する予定。</p> <p>21年度に向け、いただいたご意見を踏まえながら、今後詳細な部分について検討を進めていく。</p>	<p>「歯の健康づくり得点」で16点以上の者を増加させるため、市町村や職域での活用を推進する。</p> <p>「歯の健康づくり得点」は、セルフチェックをすることにより行動変容を促す有用なツールであるため、特定健診・特定保健指導での活用について保健所等を通じて積極的に提案していく。</p> <p>若年者への歯周病対策にも「歯の健康づくり得点(若年者用)」を活用してもらえよう積極的な周知を行う。</p> <p>フッ化物洗口は、地域の実情を十分考慮して実施する。</p> <p>う蝕予防における歯磨剤の活用について検討していく。</p>

